

家畜衛生情報

608号

東部地域畜産経営技術推進指導協議会

富山県東部家畜保健衛生所

西部地域畜産経営技術推進指導協議会

富山県西部家畜保健衛生所

2020.1.10

☆謹賀新年……………	1	☆【トピックス】クロストリジウム・	
☆年頭にあって……………	2	パーフリンゲンス感染症……………	5
☆新年を迎えて……………	2	☆防疫情報……………	6
☆CSF（豚コレラ）情報……………	3	☆富山県畜産共進会の結果 肉牛の部（枝肉）……………	6
☆令和元年度病性鑑定特殊講習会		☆「とやまポーク」トークセッションで	
（ウイルス部門）を受講して……………	4	CSF（豚コレラ）の知識を深めました……………	6
☆検査室レポート……………	5	☆お知らせ……………	6

謹賀新年



高岡古城公園動物園の「カピバラ」

(写真:高岡古城公園提供)

2020年、令和になって初めて迎える新年は、十二支の1番目にあたる「子年（ねずみ年）」で、本年からまた十二支のサイクルがスタートします。

ところで、日本では古くから「ねずみ」は縁起が良い動物として扱われていることをご存知でしょうか。災害に対する予知能力があり、ねずみがいる家は火事や地震などの災いが起きないと言われていました。「未来を知る神獣」として「大黒様の使者」とも信じられています。また、その繁殖速度から「子孫繁栄」の象徴、「ねずみ」という音から「寝ず身」＝「一生懸命働いて財を貯める」象徴としても扱われます。

畜産農家の皆様には、ねずみは害獣のイメージが強いかもかもしれませんが、一方では医薬品や化粧品開発などで実験動物として使われたり、人気のアニメキャラクターやペットとして心癒してくれたりと、私たちに大いに貢献してくれる存在でもあります。

さて、写真は「世界最大のねずみ」と言われる「カピバラ」の“じゅんちゃん”です。愛嬌たっぷりの行動、ボーっとしている姿はなんともほほえましく、動物園の人気者だそうです。皆様も縁起の良い世界最大のねずみ“じゅんちゃん”に、会いに行かれてはいかがでしょうか。

(西部家保環境課 飯田課長)

年頭にあたって

西部地域畜産経営技術推進指導協議会

会長(砺波市長) 夏野 修



あけましておめでとうございます。皆様方には初春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中は、当協議会の活動と畜産業の振興に格段のご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は当初岐阜県で確認されたCSF(豚コレラ)が、国内各地にまん延し、本県においても、7月28日に富山市内で死亡した野生いのししからCSFウイルスが確認されて以降、野生いのししへの急速な感染の広がりをみせたところであり、県内におきましては、各猟友会等のご協力により、野生いのししへの経口ワクチン散布のほか、各農場における衛生管理の徹底やワクチン接種の速やかな実施など、畜産農家をはじめとした関係各位の迅速な対応により、幸いにも県内農場におけるCSF発生が防がれている状況であります。さらには、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザに加え、ASF(アフリカ豚コレラ)も近隣諸国で次々に発生が報告されるなど、わが国を取り巻く環境は、いつ日本に侵入してきても不思議ではない状況となっております。

当協議会におきましては、引き続き関係機関と連携を図りながら、国内への侵入防止対策や防疫対策のさらなる強化に努めてまいりたいと考えております。また、TPP11協定の発効や日米貿易協定の最終合意等、畜産業を取り巻く環境も日々厳しくなりつつありますが、当協議会といたしましても、関係機関との連携を図りながら、畜産農家の方々が安定した経営に取り組むための各種施策の展開や、畜産環境保全、効率的な畜産経営の指導等に努めてまいりますので、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様並びに生産者の方々の益々のご発展とご多幸をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

新年を迎えて

富山県西部家畜保健衛生所

所長 台蔵 正司



あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、令和初の新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より家畜保健衛生所の業務並びに家畜衛生の推進にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年の家畜衛生情勢は、CSF(Classical swine fever)が岐阜県で発生して以来、感染野生いのししの拡散等とともに東海、北陸及び関東地域等の1府9県で発生し、これまで53事例の90農場及び4と畜場が防疫措置の対象となり、約15万頭の豚が殺処分されました。また、感染野生いのししは、本県を含め12県で約1,600頭(本県31頭)確認されました。予防対策として、8月から野生いのししへの経口ワクチン散布、10月から養豚農場でのワクチン接種を開始しました。畜産農家をはじめ、畜産関係者が一丸となり農場での石灰散布及び防護柵の設置、と畜場での交差汚染防止対策等も含め迅速な防疫措置を実施していただき、これまで県内での農場発生が無く、これも皆様のお陰だと感謝申し上げます。しかし、ワクチン接種は、本病を完全に予防防止できるものではなく、感染いのししが存在する限り、農場にウイルスが侵入し、発生する危険性があるため予断を許さない状況は変わりません。

更には、アジアで猛威を振るっているASF(African S.F.)の国内侵入は、本病に対するワクチンがないため養豚業界での破滅的な被害が予想されます。また、近隣国では高病原性鳥インフルエンザや口蹄疫等の越境性家畜伝染病が依然として発生しています。このような中、海外渡航者の増加や7月の東京オリンピック・パラリンピック開催等により、国内外を問わず人の移動や物流が盛んになり、益々疾病の侵入リスクが高まっています。このため、畜産農家並びに畜産関係者のより一層の衛生レベルの向上が肝要となりますので、特に日々の飼養衛生管理の徹底及び万が一の発生に備えた迅速かつ的確な初動防疫体制を関係機関とともに構築してまいります。

一方、畜産情勢は、TPP11、日EU・EPA協定に続く日米貿易協定の最終合意により、新たな国際環境に入り、時代に順応した畜産が求められています。今後は、今まで以上の品質向上やブランド化などの競争力強化の取組み、更に、安全で安心な畜産物の安定的な供給が重要となります。このため、職員一同、家畜衛生対策はもとより、畜産経営の安定化や生産性向上対策、そして、環境基準遵守による地域と調和がとれた畜産の推進に取り組んでまいります。

今年の干支は庚子(かのえね)、子は子孫繁栄を表すとされています。皆様の益々のご発展とご活躍される年になることを心から祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

CSF (豚コレラ) 情報

1 国内での発生状況

12月16日、愛知県田原市のCSFワクチン接種農場において国内51例目となるCSFの発生が確認されました。接種農場での発生は2例目ですが、この農場では、11月2日と26日に本病のワクチンを接種しており、接種済みの母豚から生まれた子豚での発生は初の事例となります。また、1月8日に沖縄県うるま市で52、53例目となるCSFの患畜が確認され、これまでの国内での発生は1府9県で53事例（防疫措置対象：90農場、4と畜場、殺処分頭数：153,245頭）になります。

2 県内野生いのししの感染確認状況

12月以降、立山町で捕獲された野生いのしし1頭が、新たにCSFに感染していることが確認されました。（右表）。

表 7月30日以降の検査結果（1月7日現在）

区分	陽性	陰性	計
死亡いのしし	10	2	12
捕獲いのしし	21	172	193
合計	31	174	205

（単位：頭）

3 ワクチン接種推奨地域（以下「推奨地域」）の追加（図1）

これまでの推奨地域は、CSF感染いのししが確認された12県に限定されていましたが、農林水産省は、12月20日、近時の野生いのししにおけるCSF感染状況、農場周辺の環境要因を踏まえ、飼養衛生管理基準の徹底を図っても、なお豚等でのCSF感染の防止が困難と認められる地域として下線の8都府県を追加しました。

茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、奈良県

4 今後のCSFワクチン接種の進め方

県内では、11月に一斉接種が終了しました。今後の接種については、以下の(1)～(3)の方法が推奨されます（標準的な用法）。また、家畜保健衛生所では、今後もワクチン接種や抗体検査等の継続的体制をとっていきます。なお、12月1日からは、1頭あたり290円の家畜注射手数料がかかります。

- (1) 子豚：1～2か月齢に初回接種
- (2) 繁殖候補豚：初回接種から6か月後に補強注射*
- (3) 繁殖豚：補強注射後1年ごとに注射

※今回はすべての繁殖豚において6か月後の補強注射が必要

一斉接種が終了したとはいえ、他県ではワクチン接種前の子豚での発生事例が確認されています。農場内には、ウイルスに対し無防備な子豚が存在するとの認識を持ち、健康観察を徹底するとともに、大臣指示の点検シール（図2）を参考に、一層の飼養衛生管理向上に努めていただきますようお願いいたします。



図1 CSF ワクチン接種推奨地域の追加

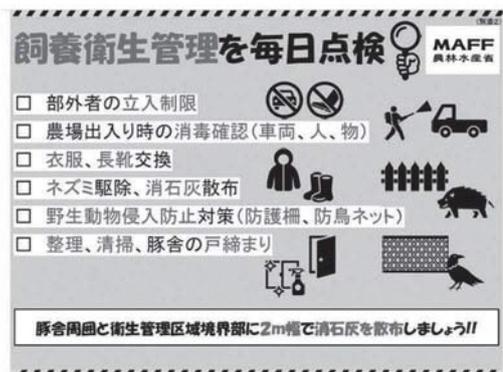


図2 大臣指示の点検シール
事務所や豚舎出入口等に貼付してください。

（西部家保防疫課 稲畑係長）

令和元年度病性鑑定特殊講習会（ウイルス部門）を受講して

令和元年5月8日から12月6日までの7か月間、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門（動衛研）にて令和元年度病性鑑定特殊講習会（ウイルス部門）を受講しました。本講習会では全国の家畜保健衛生所や動物検疫所の職員が集まり、病理、細菌、ウイルス、生化学の各部門に配属され、家畜疾病の診断技術等の学理及び技術実習を学びました。

私は越境性感染症研究領域インフルエンザユニットに配属され、家畜保健衛生所で用いる検査から、より厳密な管理と精密な操作を要する試験、さらに国内有数のバイオセキュリティの病原体取扱施設でしか実施できない感染実験まで幅広く学びました。特に、マガモへの高病原性鳥インフルエンザの感染実験では、感染後も症状を全く示すことなく生存させるウイルス、激しく首を振り回すといった神経症状を示して死亡させるウイルス、また、ほとんど症状を示すことなく急死させるウイルスが存在することに衝撃を受け、「ウイルス株による病原性の違い」を実感しました。この試験では、これらのウイルスに感染したマガモの遺伝子がどのように発現し、病原性の違いとどのように関連しているのかといった評価もおこなったことから、ウイルス側の違いばかりに目が行く自分の狭い視野を広げることができました。さらに、数十羽のマガモの各臓器から得られた多くの材料で試験をおこなったことで「機械のように正確に速く」操作するコツも得ることができました。

今回の講習では、試験研究以外にも動衛研で開催される各種研修会や他ユニットでの実地研修などで幅広い分野における知見が広まったこと、同期の研修生をはじめ動衛研職員の方と情報交換をすることで交流を深められたことも大きな財産になったと思います。

現在、高・低病原性鳥インフルエンザはさることながら、CSF（豚コレラ）やASF（アフリカ豚コレラ）が大きな脅威となっていますが、今回の研修で得られた知識・技術を活用し、責任をもって正確かつ迅速な検査を実施することで、これら家畜伝染病をはじめとした様々な疾病のまん延を防ぎ、富山県の畜産振興に努めていきたいと思っています。



研修生集合写真（藤井：中段左）



マガモの解剖



感染実験

（東部家保指導課 藤井主任）

検査室レポート

検査実施状況

(令和元年10月1日～12月25日現在)

区分	畜種	診断名・検査名	件数	頭羽数	検体数
病性鑑定	乳用牛	牛白血病	1	1	1
		牛コロナウイルス病	1	6	12
		牛ロタウイルス病	1	3	3
		牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	1	1	1
		細菌性乳房炎	31	136	282
		乳房炎検査	5	5	6
		死産胎仔	14	16	16
		関節炎	5	5	5
		心不全	4	4	4
		股関節脱臼	3	3	3
		その他	26	32	38
	肉用牛	牛白血病	1	1	1
		牛コロナウイルス病	2	9	23
		牛パストツレラ症	2	2	2
		牛パストツレラ症と牛マイコプラズマ肺炎	1	1	1
		牛パストツレラ症と牛ヒストフィルス・ソムニ感染症	1	1	1
		ビタミンA欠乏症	1	4	8
		接合菌症	1	1	1
		血液検査	9	9	9
		その他	30	35	43
	豚	豚クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	1	1	1
		豚胸膜肺炎	1	1	1
		豚パストツレラ症	1	1	1
		豚パストツレラ症と豚レンサ球菌症	1	1	1
		豚レンサ球菌症	1	1	1
		その他	14	15	17
	鶏	鶏コクシジウム病	1	3	3
		その他	3	3	3
	緬・山羊	壊死性空腸炎	1	1	1
		血液検査、寄生虫検査	1	3	6
		その他	4	4	4
	馬	心不全	1	1	1
	一般検査	牛・豚・鶏・馬		159	1,158
鳥インフルエンザ検査	鶏	分離・抗体検査	18	180	360
BSE検査	牛	エライザ検査	13	13	13
TSE検査	山羊	ウェスタンブロットまたは免疫組織学的検査(農研機構 動物衛生研究部門に依頼)	6	6	6
CSF(豚コレラ)検査	野生いのしし	PCR検査	18	70	70
合計			384	1,737	2,639

【トピックス】クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症

本症は、以前に壊死性腸炎と診断されていた疾病で、牛、豚、鶏等でみられます。原因菌である *Clostridium perfringens* は家畜の腸管内や飼養環境中に常在していますが、飼料の急変、濃厚飼料の多給、変敗した飼料の給与、他の消化器疾病等の各種ストレスが引き金となり、腸管内で原因菌が異常に増殖します。その際に毒素が大量に産生され、出血性の腸炎となり急死します。発症すると経過が早いことから治療効果は期待できないとされています。予防対策としては、畜舎の清掃・消毒、適正な飼料給与、生菌製剤の添加等があります。また、牛では、クロストリジウム感染症を予防するワクチンが市販されています。

(西部家保検査課 本多課長)

防 疫 情 報

全国の主な家畜伝染病の発生 CSF(豚コレラ) (法定伝染病) (1月8日現在)

	発生日	発生場所	経営形態	飼養頭数	備 考
51 例目	12月17日	愛知県田原市	豚一貫農場	1,770 頭	ワクチン接種地域であるため制限区域は設定しない
52 例目	1月8日	沖縄県うるま市		393 頭	
	(関連農場1戸)	沖縄県うるま市		432 頭	
53 例目	1月8日	沖縄県うるま市		921 頭	

県内の主な家畜伝染性疾病の発生

病 名	畜 種	発生日	戸 数	頭羽数	備 考
牛パストツレラ症	牛	11月20日	1	1	
豚丹毒 (届出伝染病)	豚	12月4日	1	1	と畜場発見
牛白血病 (届出伝染病)	牛	12月10日	1	1	
牛コロナウイルス病	牛	12月11日	1	5	
		12月19日	1	4	
牛パストツレラ症と牛マイコプラズマ肺炎	牛	12月19日	1	1	

国内の野鳥の糞便からの低病原性鳥インフルエンザ (LPAI) ウイルスの検出

検出日	採材場所	検体	検体数	検出ウイルス
12月9日	奈良県大和郡山市	糞便	1 検体	LPAI ウイルス (H5N3 亜型)
12月13日	島根県安来市	糞便	1 検体	LPAI ウイルス (H5N2 亜型)

富山県畜産共進会の結果 肉牛の部 (枝肉)

12月6日、(株)富山食肉総合センターにおいて、富山県畜産共進会肉牛の部(枝肉)が開催されました。出品牛49頭(和牛27頭、交雑種22頭)の審査の結果、和牛は氷見市の宮本忍さんが優等賞1席を、交雑種は舟橋村の嶋田勇さんが優等賞1席を受賞されました。おめでとうございます。

出品牛全体では、和牛は4等級以上が90%以上と全国平均と比較し非常に高い割合でした。また、交雑種では肉質、枝肉重量、ロース芯面積が昨年と比べ向上する結果となり、生産者の飼養管理技術の向上が今回の枝肉成績に繋がったと感じられました。(西部家保環境課 田知主任)

「とやまポーク」トークセッションで CSF(豚コレラ)の知識を深めました

12月20日、「知ろう!学ぼう!『とやまポーク』トークセッション」が富山県民共生センター(サンフォルテ)で開催され、参加者約70名がCSFに関する知識を深めました。講演では麻布大学獣医学部の長井誠教授が、日本で発生しているCSFの詳細やワクチン接種に至った経緯などについて説明されました。意見交換会では、安全な県産豚肉が農場から食卓に届くまでの取組みを生産者、家畜防疫員、食肉事業者、消費者団体等が紹介し、消費者からの「CSFが26年ぶりに発生した原因は?」「平成18年度からCSFワクチンを接種しなくなったから発生したのでは?」等の質問に答え意見交換を行いました。試食会(右写真)では「とやまポーク」のしゃぶしゃぶを試食し、参加者は、「柔らかくておいしい。」「臭みがなくてさっぱりとしている。」「豚肉は嫌いだったけどおいしくいただけました。」と感想を述べながら、生産者の安全に対するこだわりについて理解を深めました。



「とやまポーク」のしゃぶしゃぶの試食会

(西部家保環境課 飯田課長)

☆ お 知 ら せ ☆

催 事 等	期 日	場 所
富山県畜産関係業績・成果発表会	1月31日 10:00~17:00	県庁4階大ホール

発行所 富山県東部家畜保健衛生所 http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/
〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6 電話 (076) 479-1106 F A X (076) 479-1140
編集者 飯田 佳代 (富山県西部家畜保健衛生所)